面の連累者も二三日中に逮捕される筈であらうと

軍縮準備に小國の軍器を引受ける砲兵工廠

成功すれば大業緩和されん

阪砲兵工廠内は軍縮問題の影響で解雇の主張する最低賃銀に達してゐる」として當分解雇は大丈夫と言明してゐるが何時軍縮が具體化して本年度の仕事に影響し て來ないとも分らないので内心之を憂慮し經行するからうとか強制的に退職者を募りつゝあると云ふやうな風説が職工の心裡に陰影を投けてゐる、工廠當局の辯明に依ると「五月一日現在の職工數は六千三百人で軍縮問題が騒ぎ出されて以來別に大差はない、殊に本年度の仕事は前年度より多量であるから俄に減員する必要を認めず日收の如きも現在平均額は男二圓五十錢、女一圓三十錢向上會なる一つが最近還雜誌から和當註文があつて既に製造しつゝあり之が監督として同國政府からサラユダ少佐、ベロチヤ大尉來朝し日々工廠に詰掛けてゐる、全國の軍器引受けに付いては英米兩國も運動に努めつゝに奪取される筈があるので工廠では秘密に附してゐるが斯る註文が續々あれば職工の失業も大いに緩和されるであらう

幹部の處置を憤る

向上會陣容立直し延期

大阪向上會城高支部の檢舉後紛たる組織問題の善後策を講ずべく同會は六日午後七時から鳳町一丁目○○寺で開かれた後援會幹部會に提出した草案の決定を見ず次回第二回の會合に持越したが當日出席の役員中川德松他數名はこれを以て幹部の專横なりと罵り更に八木會長に對し三月分の運動費の決算報告を示せと迫り立ち一方幹部派もこれに對抗して滿場騒然たる一幕を演じ散會した

労働者代表が二等に乘つたり

フロックを着るは不都合と見苦しい内輪揉の向上會

大阪砲兵工廠の向上會では九日役員會を開き會計問題から紛糾を續し非難の的となつた八木會長は「脫會すると極言するに至つた會長攻撃側の言分は八木會長が餘り會金を浪費すると云ふにあつて過般普選運動の際役員上京の爲めとて會員一人五十錢宛二回に徴收した七千圓を僅か一週間で殆ど其他大臣訪問の際も勞働者代表らしくなく役員一同がフロックコートを新調したり會長が上京の際など常に二等車に乘込むことなどを摘出したものだ其結果硬軟兩派に分れて睨み合つてゐるがこの裏面には砲兵工廠當局が糸を引いてゐるらしいとの噂がある（大阪電話）

五泉織物盟休

六ヶ月一ヶ月間實行

製産の調節を計り職工には手當支給

二月中五泉機業家は、生産調節の爲め休業盟合せをなしたるも當時夏物織の最中にて先約を終つたが日下同地方面では金融度の緩和に一方織賃も幾分か引上げられ製品の値上げも出來取引も閑散なるに鑑み臨時休業を來る六月一日より向ふ一ヶ月間とし休業中の職工手當は職工は一日金二十錢下働きは金十五錢を支給するに昨十八日の評議員會に決定したが五泉の休業は操業短縮の意味である

今度は解雇手當で會社と押問答

復も職首職工連の失敗

石川島造船所職首職工武田伊三郎他十四名は獎に會社より送附した解雇手當を不當なものとして廿日午前十一時四十分會社を訪問し今回の職首に直接關係しない職工の返事を聞いて二三押問答の末會社の冷酷なる態度を罵りつゝ同三時半引取つた一方勞働本部では差當り焦眉の問題として團結組合を作ることになつた

古川製紙

給料不拂から騒ぐ

王子製紙會社大阪工場では操業短縮の爲め給料の一部がなかつたが十五日も上半月分の給料支拂を延期するため職工數名は十六日東區米吉役所に出頭し工場事務所に社長及幹部が集合し居るを知り大擧して社長に其の不法を詰り暴行に出でんとしたので所轄署では兩三日中に支拂はすことゝして引取もしめた

大阪田中機械工が請求訴訟

大井の轢死

二十二日午前六時頃下り一鹿島谷ガード上の下り線路で二十四五才位の職人體の男が首と胴とを切斷されて即死の轢死を遂げた大阪電話）